

子どもと地域社会をつなぐ事業

事業報告書 2024

～ お仕事について学んだ子どもたちの記録 ～



一般社団法人 こもれび



こどもの未来応援国民運動

目 次

- はじめに～お仕事体験を始めた経緯～ 1
- 令和 6 年度 お仕事体験講座の概要 2
- 講座内容（第 1 回～第 7 回） 4
- お仕事体験講座を終えた子どもたちの感想など 12
- お仕事体験講座【実践編 ～こもれびカフェのオープン～】 17
- おわりに 20

はじめに ～ お仕事体験講座を始めた経緯 ～

当法人は、放課後等デイサービス、子ども自立アシスト事業（大阪市委託事業）、フリースクール Ecole de らじえむの運営をおこなう中で、現在年間 150 名以上の中学生・高校生の支援をおこなっています。これらの事業で接する多くの子どもたちに共通することは、『社会体験』の不足です。学校生活での学び・友人との遊び・地域社会における活動などの機会が不足しているため、子どもたちは職業への関心や自分の将来のイメージが湧きにくくなっています。また、自己肯定感を高める機会も失っており、将来に対して希望や目標が持てず、次への活力を見いだせずにいます。

そうした子どもたちに職業や社会を知る機会を提供したい。体験を通してさまざまな価値観や人生観に触れながら、自己理解を深め、自己肯定感を高めたい。そのような思いから令和 4 年度において『こどもの未来応援基金（未来応援ネットワーク事業）』に応募し、本事業が採択されました。その後も令和 5 年度及び令和 6 年度と 2 年度連続で採択され、試行錯誤を繰り返しながら子どもたちの成長を見守ってきました。

今回で 3 年目となる本事業は、過去 2 年間の講座における振り返りを踏まえ、より子どもたちの成長に役立つカリキュラム内容に変更して実施しました。今年度の事業報告は 3 年目の総まとめとして、過去 2 年間の子どもの感想なども踏まえながら実施いたします。

お仕事体験講座 ～ カリキュラムの変遷 ～

令和 4 年度から開始された『お仕事体験講座』のカリキュラムは、子どもたちの状況を踏まえながら年々改良を加えて実施しています。講座はワークを含む講義と職場体験の実習をワンセットでおこない、子どもたちに『社会の疑似体験』をおこなってもらう内容にしています。

令和 4 年度【2 クール制】	令和 5 年度【1 クール制】	令和 6 年度【1 クール制】
[夏季]	1. 自己理解①（自分の強みを探す）	1. 自己分析と職種を知る
1. 適性診断・お仕事調べ	2. 自己理解②（適性と職業理解）	2. 伝わるコミュニケーションのヒント①
2. 社会人マナー・お金の使い方講座	3. 実習のためのマナー講座	3. 伝わるコミュニケーションのヒント②
3. 職場実習	4. 職場実習	実習のためのマナー講座①
4. 実習の振り返り・お礼状作成	5. 実習の振り返り・お礼状の作成	4. 実習のためのマナー講座②
[冬季]	6. 職業調べ	5. 職場実習
1. 適性診断・お仕事調べ	7. マナー講座・全体のまとめ	6. 実習の振り返り・お礼状の作成
2. 社会人マナー・お金の使い方講座		7. マナー講座・全体のまとめ
3. 職場実習		
4. 実習の振り返り・お礼状の作成		

事業開始当初は、子どもたちの興味や集中力などを見極めるため、比較的短期のカリキュラムを 2 クールで実施しておりました。その後は「自己理解や実習のためのマナー講座」をより深く学べる講座に改変し、今年度は更にコミュニケーションに関する講義も採り入れました。また、実習先へのお礼状作成は事業開始当初より実施しており、子どもたちの思いが詰まったお礼状を毎年実習先の皆さまにお届けしています。



令和 6 年度 お仕事体験講座の概要

【 参加者 】	【 支援者 】
中学生：8名 高校生：3名	◆担当講師 キャリアコンサルタントなどの資格を有するキャリア支援のプロフェッショナル ◆サポートスタッフ 社会福祉士、スクールソーシャルワーカーなど専門職

子どもと地域社会を つなぐ事業！ お仕事体験

対 象： 高校生・中学生
場 所： こもれび（大阪市西区南堀江 3 丁目 11-22 6 階）
定 員： 15 名程度
参 加 費： 無料

 こどもの未来応援国民運動

昨年度、子どもたちが大きく成長した企画をさらにバージョンアップしました！
社会にはどんな職業があって、今の自分はどんなことに興味を持っているのか、
その中で自分は何の職業が好き？自分には、どんな職業が向いている？
働き方支援の専門家であるキャリアコンサルタントとビジネスマナー講師や、
こもれびのスタッフと一緒に、学んで体験して、もっと自分や社会を知ってみよう！

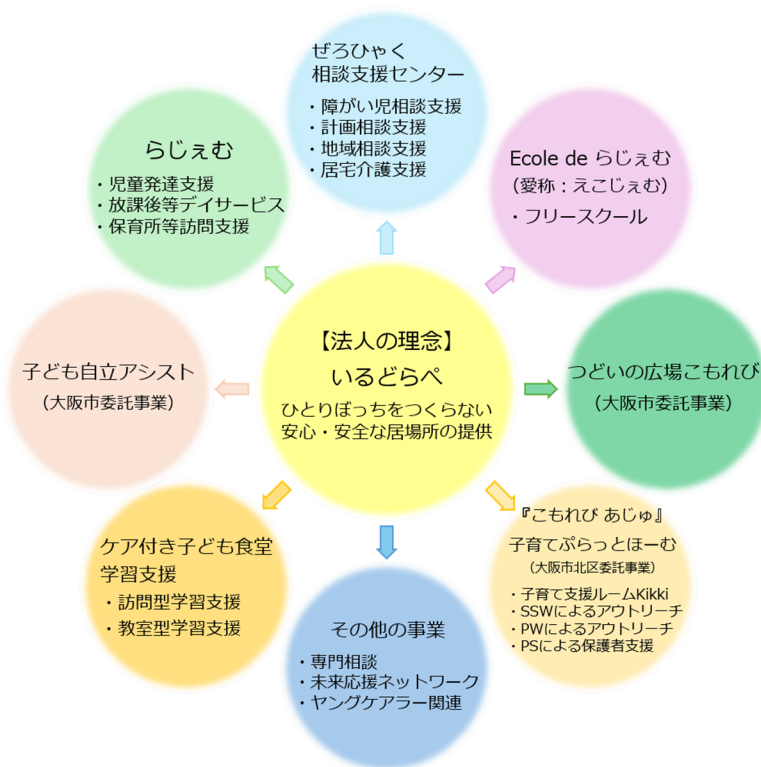
実習協力先

(株)エクストランス
Café CREDO
YMCA とさぼり保育園
ル・クロ・ド・マリアージュ

毎回の講義で実践したこと

1. 挨拶と自己紹介
毎回テーマを決めて発話の練習
2. できたシール（金星☆シール）を貼る
ワークなどの作業が終了するたび、☆シールを貼り達成感を味わう
3. 受講後の気持ちの確認
ハリーカードを使った気持ちの整理
4. 講師・スタッフからのコメント
子どもたちのそれぞれの強みをシールに書いてファイリング
5. 講師・スタッフ間の振り返り
次の講義に向けたミーティング





法人紹介

一般社団法人 こもれび

大阪市西区にて 2013 年に創設。

『ひとりぼっちをつくらない』を理念に掲げ、中学生・高校生のひきこもり支援やケア付き子ども食堂、フリースクール、放課後等デイサービス、子育て広場、相談支援事業など、さまざまな事業を展開しています。

講師紹介

一般社団法人 ブライトシフト

産業・福祉・教育分野で仕事をしている 7 人がパラレルキャリアで立ち上げた組織です。

質の高いコミュニケーションのための大切な 4 つの柱「自己理解・他者理解・自己表現・相互理解」を深めるために、対話型成長支援の研修やワークショップなどを提供しています。



こどもの未来応援基金

こどもの未来応援基金は、子供の貧困対策を進めるための官民連携プロジェクトのひとつとして、2015 年に創設。企業や個人の皆さまから広く寄付を募り、草の根で子供たちへの支援を行う団体の活動を支えることで、多くの方々の「子供たちに何かしたい」という気持ちをつないでいます。

2024 年度は、404 団体から申請のあった事業の中から審査が行われ 126 団体が採択されました。

こどもの未来応援国民運動

本事業は、こどもの未来応援基金の支援を受けて実施しております。

講座内容

「好き」なことから自分を知ってみよう～自分はどうな人だろう？ & いろんな職業を知ろう～

『〇〇が好き』をキーワードに13歳のハローワークのwebサイトを活用して、自己理解と職業への知識を深めました。どんなところが好きなのか、どれくらい好きなのか、何に興味があるのか、『好き』の理由やきっかけを言語化しました。同じものが好きでも、どこがどんな風に好きなのか人それぞれです。その『違い』が『その人らしさ』に通ずることを学びました。

また、気になる職業からさらにその周辺領域まで視野を広げ、これまで知らなかった職業を知る機会となりました。



講義を終えた
子どもたちの感想

- ・ 思っていたよりも沢山の職業があって、沢山の選択肢があると感じた。
- ・ 自分の好きなことやしてみたい職業がわかりました。
- ・ 仕事の種類の多さと大変さがわかりました。
- ・ 周りが否定しても、自分の好きなことを続けていけば、きつになりたいものになれるということに自信がついた。
- ・好きなことに熱中して勉強するというのは大切だなと気付きました。
- ・自分が思っているより職業はたくさんあって、自分の得意なこと、好きなことをいかせる職業もあるんだと思いました。
- ・一つやりたい、興味がある仕事があっても、そこから枝分かれになるように様々な分野に分かれていることがわかった。 など



初めての体験と初めてのメンバーに緊張の中で講義はスタートしました。

はじめの挨拶の後、講師から指示された自己紹介は、自発性を促すために挙手制にしました。初回のテーマは、「好きな食べ物」についてです。

ところが・・・子どもたち間で長い沈黙がつづきます。約30分後、全員の自己紹介が終わり、講義が始まりました。

その後の講義は着々と進み、講義の進行に伴って、子どもたちの表情も徐々に和らぎ、ときおり笑顔もでるようになってきました。最後に、感情カードを用いて、自分の思いを振り返りシートに記入し、初回の講義は無事終了しました。



第2回 伝わるコミュニケーションのヒント①

講座内容

伝わるコミュニケーションのヒント① ～自分の気持ちや考えを伝えてみよう～

そもそもコミュニケーションとは何なのか？から考え、言語・非言語のコミュニケーションがあることを学びました。そして自分がよくしているコミュニケーションの癖を振り返り、どうしたらよりよく伝わるためのコミュニケーションになるのかを探りました。

シチュエーションを用いて講師やサポートスタッフとペアになり、ロールプレイを実施して自分の気持ちがどの程度相手に伝わったのか確認をしました。

子どもたちには、自分が発信するためのコミュニケーションについて学びを深めるきっかけとなりました。



2回目の講座では、子どもたちの表情がスタートの時点から変わっていました。自己紹介のテーマは「好きな色」でしたが、今回はそれに加えて「自己紹介は全員で10分間」という講師からのミッションが追加されました。子どもたちはそのミッションを達成するため、全員が率先して自己紹介をおこない、とても円滑に自己紹介が進んでいきました。初回の経験がしっかりと活かしていたようです。

また、初回よりも講師陣やサポートスタッフが子どもたちの性格や特徴を理解したことで、より適切な声かけやサポートをおこなうことができました。



講義を終えた 子どもたちの感想

- ・相手を意識することに気づいた。
- ・自分が相手に伝えたいことを言う時の言い方などがわかった。
- ・伝えるということが思っていたよりも難しいと感じた。コミュニケーションは難しいけど、楽しいと思えるようになっていったと思った。
- ・相手に伝えるときに、声や表情で伝わり方が変わることに気づきました。
- ・自分の気持ちを伝えることは普段の生活だけではなく社会でも大事なんだなと思いました。
- ・会話のキャッチボールのむずかしさ、コミュニケーションをする相手にどう話せば伝わるのか、逆に自分の気持ちをどこまで出すべきかがわかった。 など



第3回 伝わるコミュニケーションのヒント②・実習のためのマナー講座①

講座内容

伝わるコミュニケーションのヒント② ～相手が伝えたいことをきちんと聴こう～

相手が話していることをきくためには、『聴く』ことと『訊く』ことが大切であると学びました。話の内容を復唱すること、理解を深めるために質問することを実践しました。実習で活かせるよう、具体的な表現方法や文言も学習しました。

実習のためのマナー講座① ～職場に必要なマナーについて知ろう【前編】～

入門編として、『報・連・相』について学び、指示を受けた時にすべきことを確認しました。

買い物を頼まれたシチュエーションを用いて、メモをとったり、報連相をおこなったりするロールプレイをおこないました。



講座も3回目を迎え、子どもたちも講義の雰囲気や講師・サポートスタッフに慣れてきた様子。サポートスタッフと1対1でロールプレイをおこない、場が随分と朗らかになりました。

ロールプレイ中、サポートスタッフは講座で学んだ枕詞や感謝の言葉を積極的に使用し、子どもたちに意識してもらうように努めました。

子どもたちには一言一句メモを取ろうとする傾向があり、経験のなさや要点をまとめる難しさを感じました。講師とスタッフ間のミーティング（振り返り）では、今回の内容を受けて、次回の講座でメモの取り方についての説明を入れることにしました。



講義を終えた
子どもたちの感想

- ・言い方によって受け取り方が全然違うということ。
- ・コミュニケーションを取らないから大事だと思わなかったけど、それはとても大事な事だということが分かった。など

第4回 実習のためのマナー講座②

講座内容

実習のためのマナー講座① ～職場に必要なマナーについて知ろう【後編】～

5W2H がメモを取る時のポイントになることを学びました。また、報連相をおこなう時には、相手の知りたい結論から伝えること、事実と意見は区別して伝えることを復習し、再度メモを取る場面をロールプレイで実践しました。

また、第一印象の大切さや、マナーの5大要素について学びました。

実習先で使える挨拶を実践する場面では、「おはようございます」から始まり、自己紹介、「よろしくお願いします」までの流れを講師やサポートスタッフとペアになり、練習しました。

指示の受け方

①名前を呼ばれたら、すぐに「ハイ」と返事をし、メモ帳と **ペ** **ン** を用意する

②あいづちを打ちながら最後までよく聞く

③指示を聞きながら、もらさず **マ** **モ** を取る

④「わかったつもり」は禁物。わからない点は、その場で納得のいくまで質問する。

⑤メモを見ながら、要点を **復唱** 確認する。

⑥同時に別の指示を受けている場合は、その事を伝えて指示をあおぐ。

勝手に **優先順位** を決めないこと

5W2H メモを取る時のポイント

When	いつ
Where	どこで
Who	だれが
What	なにを
Why	どうして
How many	どれくらい
How much	いくら



子どもたちの表情が柔らかくなり、自信がついてきていることが見て取れるようになってきました。

挨拶の練習では、これまでの講座で習ったことを意識していたようで、初めからお辞儀ができる子どもたちが多くいました。また、講師からのアドバイスを素直に受け取ることで、お辞儀はさらに上達しました。

サポートスタッフが毎回同じ子どもにつくことで、互いの関係性が構築され、子どもたちが自分から気持ちや考えを語ってくれる場面も多くなりました。いろんな実習に行ってみたい、当初の実習希望先の他にも興味が出てきた、など子どもたちの関心に幅の広がりを感じました。



講義を終えた 子どもたちの感想

- ・第一印象はすぐに決まってしまうということがわかった。
- ・相手の目を見ながら挨拶やありがとうございましたなどと言った方がいいことがわかった。
- ・挨拶のしかたなどを理解できた。
- ・仕事や社会では、相手の顔を見て話すことや挨拶することが大切だということが分かりました。
- ・お辞儀をする時の頭の角度や言葉を喋る時に笑顔で心がける大切さがわかった。 など



第5回 お仕事体験 ～ 職場実習 ～

株式会社 エクストランス



営業事務

インターネットサーバーホスティングサービス事業を展開している『株式会社エクストランス』の営業事務の仕事を経験しました。

PCで宛名ラベルを作成、書類を三つ折りにして封入し、投函するまでの一連の作業をおこないました。また、備品の発注作業もおこないました。

宛名ラベルを貼ることや、書類を三つ折りにして封入することなどは日常生活でもおこなうことですが、“仕事”になると責任感が生まれ、緊張しながらもより丁寧に作業をすることを心掛けていたようです。



Café CREDO



カフェ店員

コーヒーやカフェラテ、スイーツなどを提供している『Café CREDO』では、店員業務を経験しました。

具体的には、ドリンクの作成やお客さまへの配膳などをおこなう作業を経験させていただきました。

特に楽しそうだったのは、ラテアート作りでした。一回目でうまく描けなかったことも、コツを教えてもらい回数を重ねることで徐々に形になっていくことが楽しかったようです。接客についても初めはとても緊張しましたが、段々と慣れて笑顔で接する場面も多く出てきました。



YMCA とさぼり保育園



幼児保育

『YMCA とさぼり保育園』では、3 歳児クラスと 5 歳児クラスに分かれて職場実習をおこないました。

元気いっぱいの子どもたちに囲まれて、おんぶや抱っこをしたり、ブロック遊びや読み聞かせをおこなったりしました。

先生たちが園児にどのように接しているか、言葉のかけ方が大きな学びになりました。

園児たちがとてもかわいらしく、あっという間の実習でした。



ル・クロ・ド・マリアージュ



厨房・接客業務

フレンチレストラン『ル・クロ・ド・マリアージュ』では、キッチン業務と接客業務を体験しました。

朝礼から始まり、キッチンでは野菜の仕込み、接客ではテーブルのセットをおこないました。

開店後は、実際のお客様に提供する料理の準備やオーダー、配膳、お水の追加などにも挑戦しました。

初めての職場体験に緊張していたようでしたが、終了時には「できた」という達成感をいっぱい感じてもらったようです。お客様に喜んでもらえ、働くことのやりがいを感じてもらえた実習でした。



第 6 回 実習の振り返り・お礼状の作成

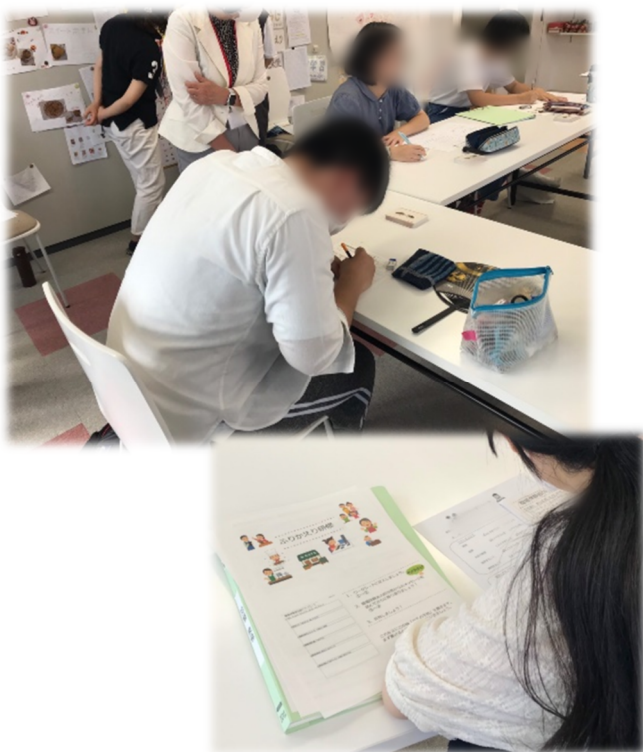
講座内容

実習振り返り・お世話になった方へのお礼状作成 ～自分の可能性を知るために体験したことを振り返ろう～

お礼状の作成では、ワークシートに沿って職場実習の振り返りをおこないました。自身の良かったところ、実習で難しかったところを講師やサポートスタッフと対話しながら自身の言葉でまとめました。

自身の振り返りシートと実習先からの振り返りシート(挨拶、身だしなみなどの評価やアドバイス)を見比べ、自己評価と他者評価の違いを感じました。

実習先からはあたたかいコメントをいただき、改めて実習を終えた達成感を感じることができました。その気持ちをお礼状としてそれぞれの実習協力先宛に作成しました。



子どもたちが妥協することなく、自分の実習をじっくり振り返り、自身の言葉を丁寧に考え、下書き用紙に記入していました。清書用の便せん書き写す際には、間違えないように慎重に取り組む姿勢がとても印象的でした。

毎回おこなう「よろしくお願いします」「ありがとうございました」の挨拶や、自己紹介の場面でも回を追うごとに子どもたちの成長が感じられましたが、特に実習を終えてからは、より一段と変化が感じられました。実際の職場で実習をおこなうことでたくさんのホンモノに触れることができ、子どもたちの中から自然と『達成感』『自信』『感謝』の気持ちが湧き上がっていました。



講義を終えた 子どもたちの感想

- ・文章の作り方がわかった。
- ・自分が感じたことを文章にすることが難しいと感じた。
- ・誰かにお礼状を送る時は、書き方に十分気をつけないといけないんだなということに気づきました。
- ・振り返りワークシートに書いたことをそのまま書くのではなく、少しひねりを加えて書くのが楽しいことに気付いた。
- ・職場体験の振り返りとお礼状作成では、体験したことを思い返していろいろなことがあったなと気づき、思いました。など



第7回 マネー講座・全体のまとめ

講座内容

マネー講座・全体のまとめ ～未来に向けてお金との賢い付き合い方と全体の振り返り～

マネー講座では、生活に必要なものを、ニーズとウォンツの観点で仕分し、優先順位を決めてお金を遣うことの大切さを学びました。

また、ワークでは「スーパーとコンビニでジュースを買った時、手持ちのお金の残高にどのくらいの差額が出るか」を計算したり、「残ったお金で1万円を貯めるにはそれぞれ何カ月かかるのか」を計算したりしました。そして、実際に大阪府の最低賃金でアルバイトをしたら、どれくらいの期間でどのくらい稼ぐことができるのかを計算し、お金を通して働くことの目的や大変さを感じました。

全体の振り返りでは、これまでファイリングした講師やサポートスタッフからの「自分の強みや良いところ」を見返し、特に嬉しかった言葉をピックアップしました。講座や実習を通して良かったこと、これから自分が大切にしていきたいことを書き留めて、全講座の振り返りを終了しました。

お金をつかう 問題1 どのくらい得?

ジュースを
近頃のコンビニで買うと 1本 140円
少し遠くのスーパーで買うと 1本 100円

持っているお金は、3,000円です。
20回買った場合と
スーパーで買い付けた場合と
残りのお金は、それぞれいくらになりますか？

①コンビニ	②スーパー
140円 × 20回 =	100円 × 20回 =
持っているお金 3,000円	持っているお金 3,000円
残金(a)	

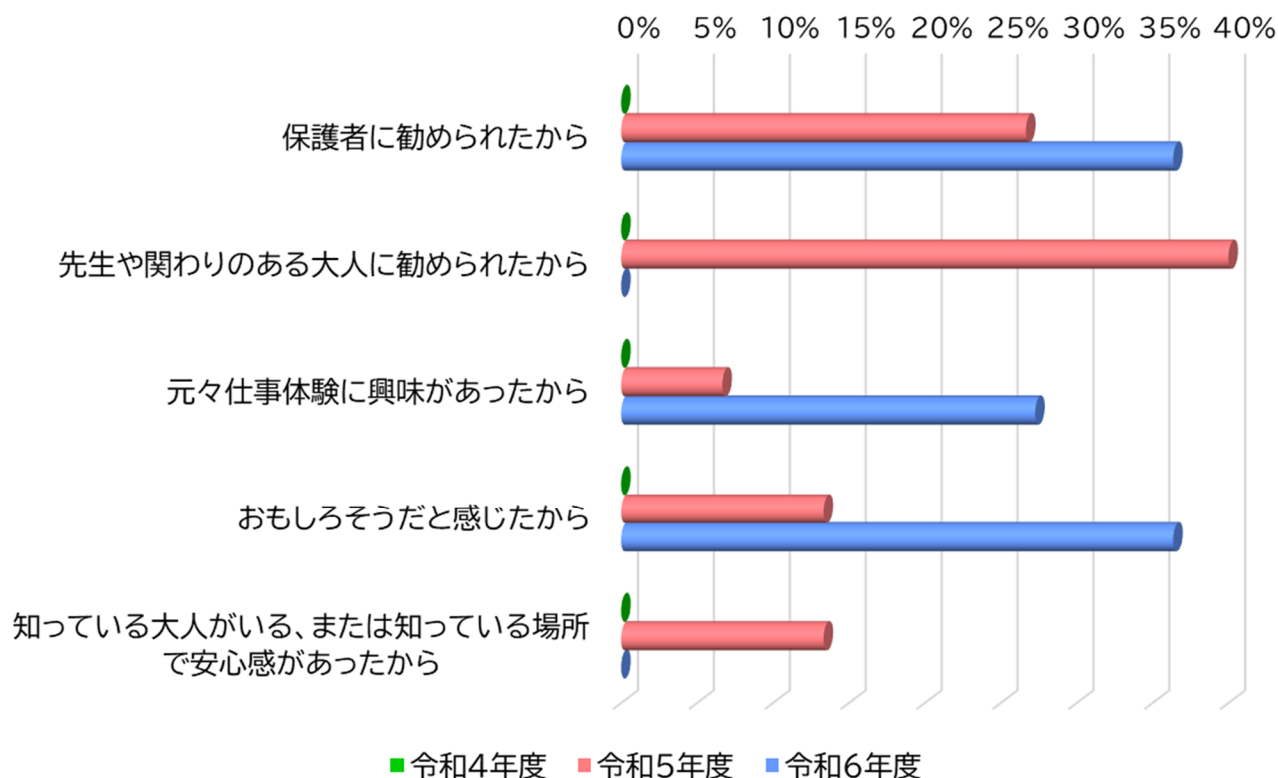
講義を終えた
子どもたちの感想

- ・欲しい物がある時に考えることの大切さに気づきました。
- ・計画を立てることの大切さ。欲しいものは節約して必要なものにお金をまわした方が良いということを学んだ。
- ・自分が欲しい高額なものはすぐに衝動買いするのではなく、1回考えてからどうするか決めたほうが良いことを学んだ。
- ・改めてお金は普段の生活で一番大事だし無くならないように計画的に使うことが大事だと気づきました。
- ・貯金をするときは、先に貯金する額を決めておくことが大事だということがわかった。
- ・必ず計画を立ててお金を使わないと大変な事になる事がわかった。 など

お仕事体験講座を終えた子どもたちの感想など

令和4年度から3年間にわたって実施したお仕事体験講座では、講座の最後に学んだことや気づいたことなど講座全体に関するアンケートを実施しています。ここでは過去2年間の集計結果も踏まえて、各年度における子どもたちの感想などをグラフ化してみました。

①この体験に参加した理由【複数回答可】



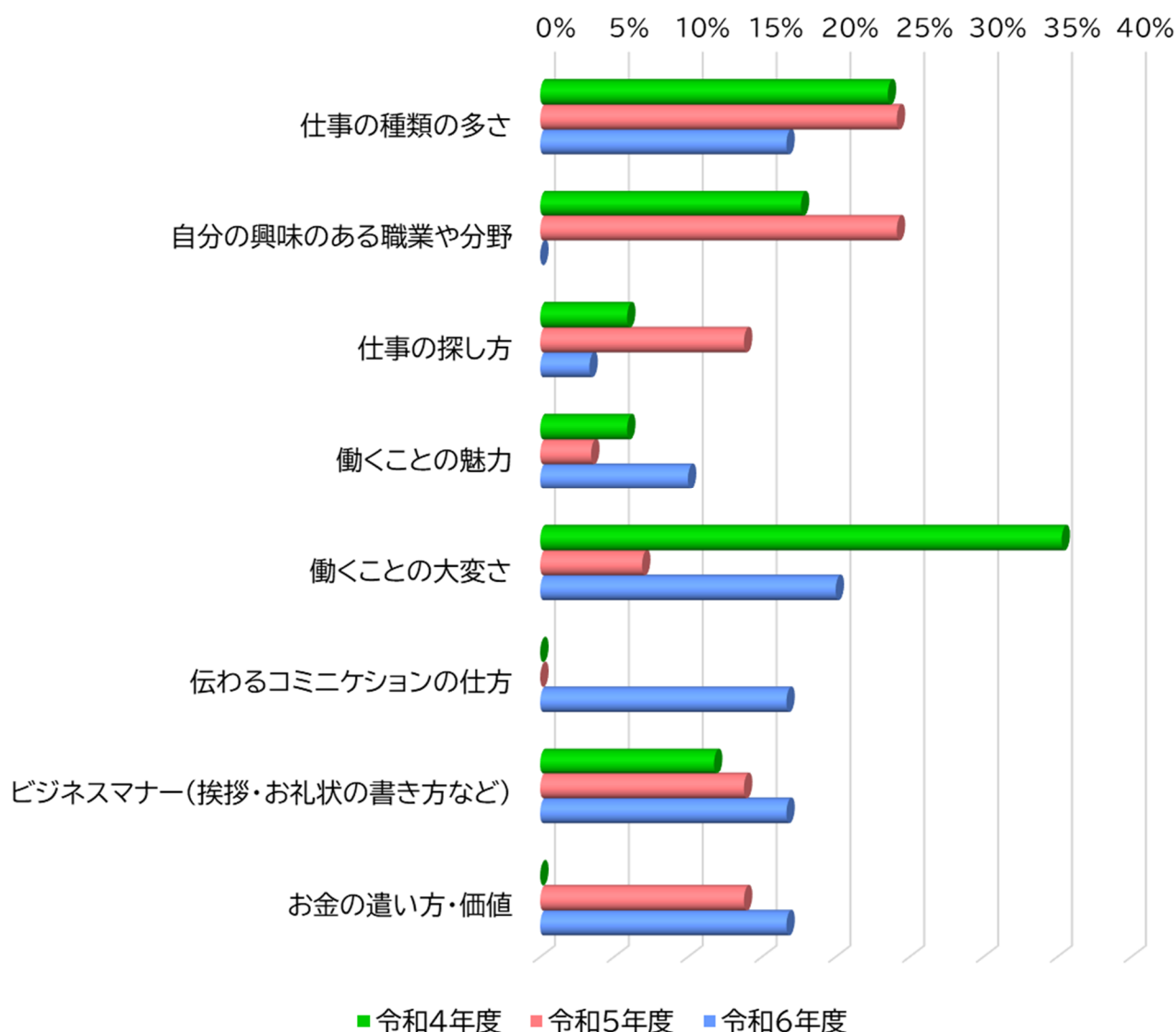
令和4年度は、この設問がありませんでしたので、令和5年度及び令和6年度の比較になります。

令和5年度は、参加者本人の自発的な動機から参加した子どもの割合は低く、保護者、先生や関わりのある大人に勧められた、知っている大人、知っている場所で安心だからという理由で参加した子どもの比率が高いことがうかがえます。

一方、令和6年度は、「仕事体験に興味があった」、「おもしろそうだと感じた」という理由の割合が令和5年度よりも増加しています。これは、本年度が本事業の3年目にあたり、お仕事体験講座の内容がある程度子どもたちへ広まってきたこと、カリキュラム内容に「コミュニケーション」に関する講義を加えたことなどの要因が動機の変化に影響を与えていると考えられます。

なお、「保護者に勧められたから」という理由の割合も高くでていますので、自発的な動機に加えて周りの大人が声掛けをしていくことの重要性も認識しておく必要があるといえます。

②お仕事体験での学びと発見【複数回答可】

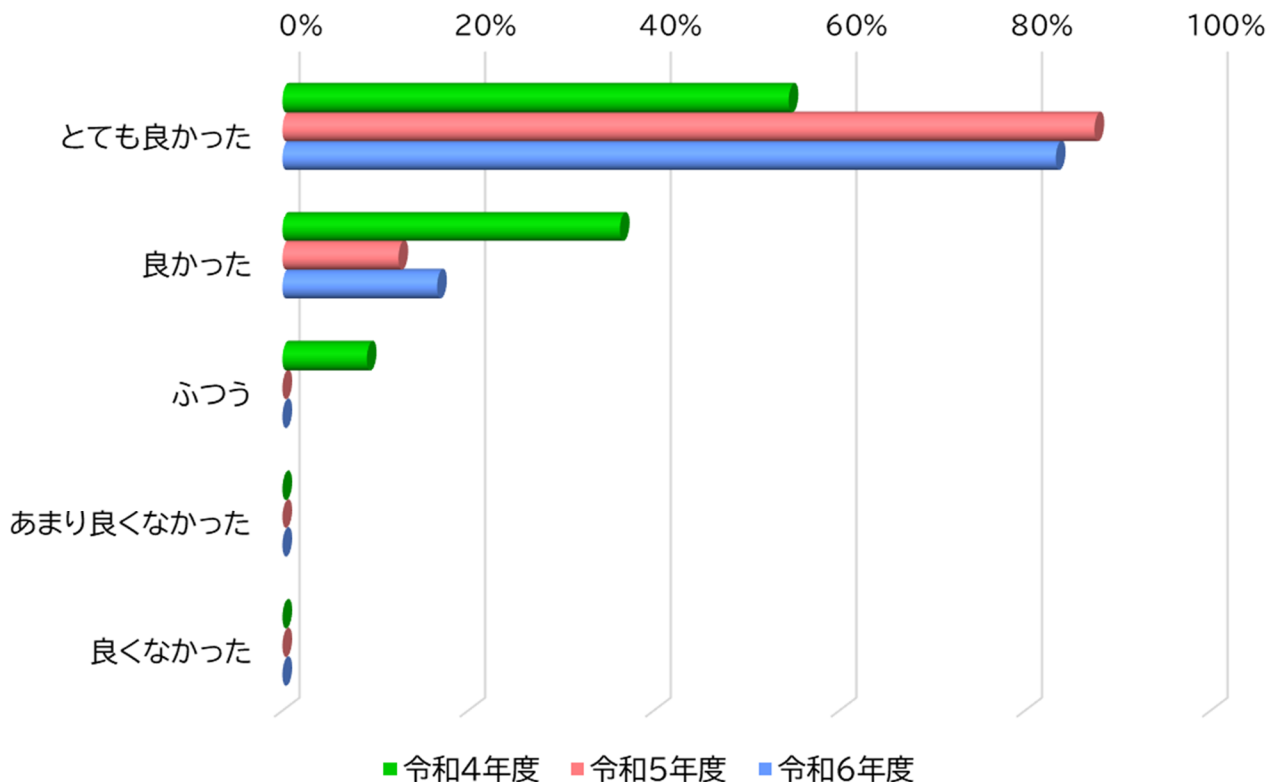


過去3年を通して、仕事の種類の多さを挙げた子どもの割合が高い傾向にあります。本講座の目的は自分の中にある可能性に気づいてもらい、より多くの選択肢を見つけてもらうことでもありますので、仕事の種類の多さを学んでもらえたことは、一定の評価に値すると思います。

一方で、働くことの大変さを挙げた子どもの割合も、令和4年度と令和6年度に比較的高い数値を残しており、今後は「社会の厳しさ」と「自分の可能性と仕事の多様性」をどのように伝えていくべきかを考え、「働くことの魅力」という回答の割合を増やしていけるよう検討を重ねていきます。

また、ビジネスマナーに関する学びについては、カリキュラムを改変している影響もありますが、年々増加している点にも注目し、今後の事業運営に役立てていきたいと思っています。

③お仕事体験(講義・実習)に参加した感想



いずれの年度においても、満足度の高い子どもの割合が高いです。良かったと回答した理由については、概ね以下の意見が寄せられていました。

◆令和4年度

- ・おもしろかったから、興味が広がったから、自信がついたから、新しいことが知れたから

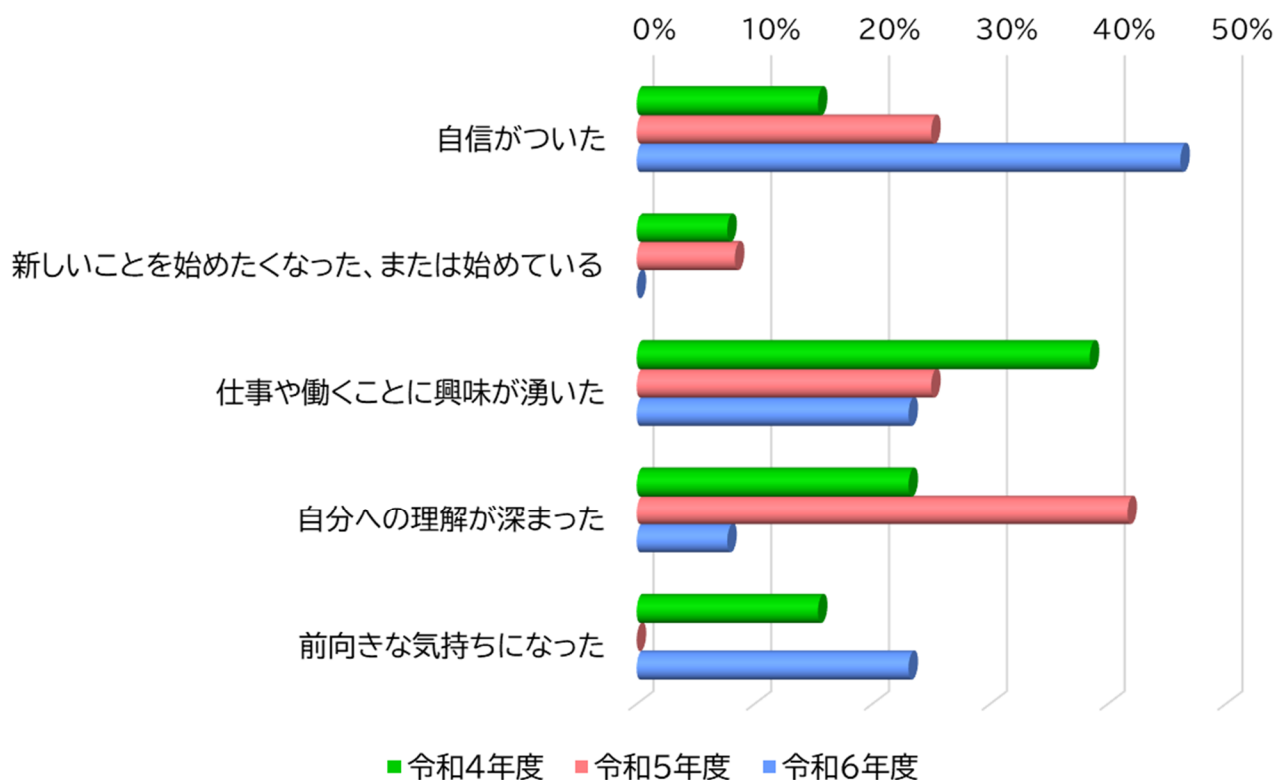
◆令和5年度

- ・楽しかったから、仕事の事だけでなく他の事も色々知れたから
- ・実際に体験して仕事の大変さや、楽しさを知れたから
- ・自分だけじゃ絶対に学ぶ事が出来ないことを学ぶことが出来たから
- ・内容がスルスル頭に入ってきて、講義の構成が良かったから
- ・学校では学べないことを沢山教えてもらったから、どんな事してるかなどがわかったから

◆令和6年度

- ・周りの大人がみんな優しいこと
- ・これから働く上で、必要なマナーを知り、実際に実習に行くことで自信に繋がったから
- ・小さい子と遊んだりするのが好きで実際保育園に行って、おままごとや絵本を読んだりして遊べたのがすごく楽しかったから
- ・講座に参加してみて想像より学んだこと、知れたことがたくさんあって今後の生活に活かせるから
- ・ビジネスマナーや話し方など、これからずっと役に立ちそうなことを教えてもらったから
- ・職場のリアルを体験できてとても良かったから

④お仕事講座の前後で変化したこと【複数回答可】



「仕事や働くことに興味が湧いた」という回答の割合が、令和4年度から低下傾向にあります。令和4年度から少しずつ「お仕事調べ」の講義時間数を減少させたことが一因になっていると思われます。

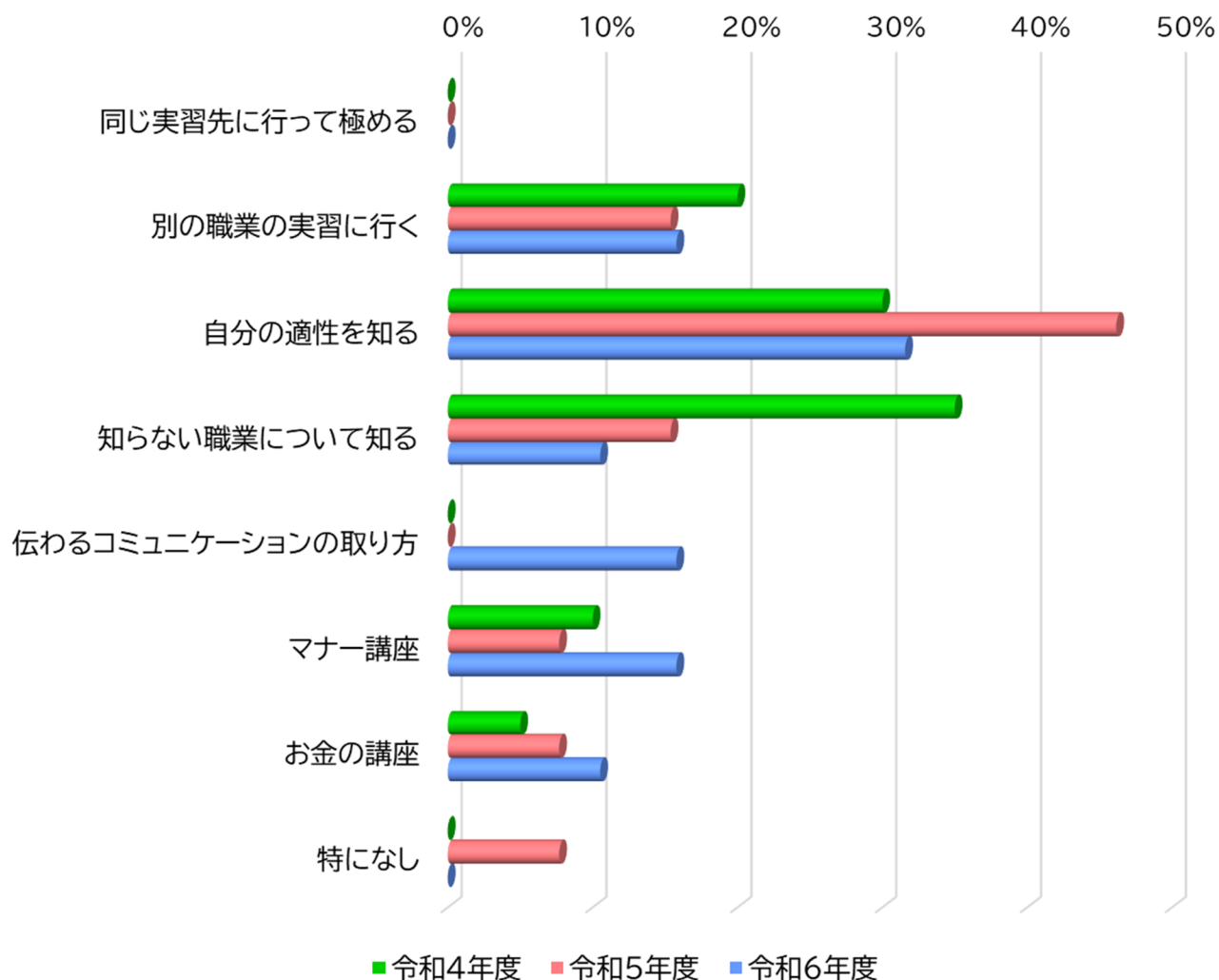
一方で、マナー講座やコミュニケーション講座の講義時間数を少しずつ増加させたことが、「自信がついた」「前向きな気持ちになった」という回答の割合の増加につながっていると思われます。

令和6年度の感想でも、「苦手だった自己紹介が少しずつできるようになった」との声も多く、マナー講座やコミュニケーション講座の効果の一例と考えられます。

令和5年度、令和6年度は講師・サポートスタッフによる「子どもの強み・良いところ」を記入したシールを毎回子どもたちにフィードバックしたことで、子どもたちの自己肯定感が高まり「自信がついた」という回答の増加につながったと思います。



⑤今後さらにやってみたいこと 【複数選択可】



令和 4 年度～令和 6 年度を通して、「自分の適性を知る」「別の職業の実習に行く」「知らない職業について知る」の 3 項目の割合が他の項目に比べて相対的に高めの割合になっています。

このことから、今後は「自分の適性を知ったうえで、他の職業実習にもチャレンジしてみたい」という前向きな姿勢が子供たちに表れているといえます。

また、コミュニケーションに関するカリキュラムは令和 6 年度のみ導入しました。「伝わるコミュニケーションの取り方」の割合が他の選択肢と同程度の割合で選択されている点は、子どもたちにとってコミュニケーションについて具体的に学ぶことは実践的な学びであり、求めているスキルだといえます。



お仕事体験講座【実践編 ～こもれびカフェのオープン～】

2023 年度

“こもれびカフェ”のはじまりは、ここから……

子どもたちが店員となって保護者や法人スタッフにおもてなしをする企画を子どもたち主導で立ち上げました。メニュー作りに始まり接客まで何もかもが初めての経験です。準備も慌ただしく 2024 年 2 月 7 日の開店当日もドキドキでしたが、実施会場では子どもたちのスキルが輝き、来てくださった保護者やスタッフの間には幸せいっぱいの笑顔があふれていました。

多くの人に幸せを提供できたことが、子どもたちの成長や自信に大きく繋がりました。子どもたちからは「次回はいつやるの?」「次はお金を稼いでみたい」などの声上がり、子どもたちにとっても“こもれびカフェ”のオープンは『働く意欲や関心』につながった貴重な体験になりました。

こもれびカフェ 2023 ができるまで

1. 子どもたちそれぞれにメニュー決め
2. 招待状の作成
3. お店のコンセプト決め
4. 看板・メニュー表づくり
5. 部屋の飾り付け
6. 講習(フラワーアレンジメント・ドリップコーヒー)
7. 当日



子どもたちが作成したメニュー

子どもたちの役割

① 接客係



席案内、オーダー提供、片付け

② ドリンク係



ドリップ珈琲、紅茶を淹れて提供

③ キッチン係



盛りつけ、あたため、お皿洗い

◆子どもたちからの感想◆

- ・計画から全て自分たちで考えてすることができ、達成感を感じた
- ・店員さんの仕事をイメージできた
- ・次回は実際に値段をつけてお金を稼いでみたい
- ・キッチン係が楽しかったのでまたやってみたい など

そして、今年度の“こもれびカフェ”は……

2024 年度

「またやってみたい!」「値段をつけてお金を稼いでみたい」という子どもたちの声を受け、昨年度に引き続き「こもれびカフェ」の開催を企画、実施しました。今年度は、11月17日に当法人が実施している「こもれび文化祭」の中で模擬店舗を出店。昨年度は保護者や法人スタッフをお客さんに接客をおこないましたが、今年度は当法人の他事業部の利用者やその保護者、地域の方を対象に営業を開始しました。

また、今回は実際にお金をもらう感覚をつかんでもらうため、メニューに価格を設定し、注文伝票の記載から最終の売上げの確認までを実践しました。

会場は、当法人からほど近くの大阪市西区民センター1階の大ホール。

広々とした会場の一角にこもれびカフェのスペースを設営し、こもれびカフェ 2024 が Open!

こもれびカフェ 2024 ができるまで

1. 会場で提供できるドリンク・お菓子の考案、決定
2. ドリンク・お菓子づくりの練習
3. 看板・メニュー表づくり
4. 接客練習・役割決め



子どもたちの役割

昨年と同様に、①接客係、②ドリンク係、③お菓子係の3班に役割分担をし、おもてなしをしました。

① 接客係

あいさつ、カウンターにて注文をとる、伝票の記入
ドリンク・キッチン係に伝える
お金の清算をする

② ドリンク係

コーヒーやカルピスなどをいれる
お客様にお渡しする

③ お菓子係

マシュマロを温め、クッキーにのせる
お客様にお渡しする





予想を上回るお客さんの多さにお店は大繁盛。子どもたちは大忙しでした。

また、慣れない会場、準備不足のところもあり、お店の運営をしながら「注文したお客さんにはこっちに並んでもらおう」「渡したものはチェックを入れよう」など、子どもたち同士で臨機応変に対応していました。

どこかの係が忙しそうであれば、その係の手伝いに入るなど、互いに協働しながらチームプレーで乗り越えていた姿がとても頼もしく、また微笑ましく感じました。

～出店を終えて～

売上金の計算や売上金の遣い方の話し合い、体験してみた感想やお店の改善点の共有などをおこないました。



① 売上金の計算、売上金の遣い方の話し合い

- ・ドリンク 47 杯 (50 円/杯)
- ・お菓子 35 個 (50 円/個)
- ・無料チケット分 26 品 合計 108 品の提供で、売上総額は 4,100 円になりました。

子どもたちや会場を訪れた家族連れのお客様など、さまざまな人を買ってもらいやすいよう低価格に設定していたので、収支としてはマイナスでした。

働いたことに対する成果を子どもたちに感じてもらえるよう、今回は売上金の使い道を子どもたちで考えることにしました。「打ち上げする?」「足りない分はお小遣いを足して、出かける?」などいろんなアイデアが出ました。話し合いの結果、みんなで使える遊び道具を購入することにしました。

② 体験してみた感想、お店の改善点の共有

- ・たくさんお客さんが来てくれてよかった。
- ・スタッフとおしゃべりしながらお仕事を楽しくした。
- ・コーヒーを淹れたり、マシュマロを焼いたりするのが楽しかった。
- ・予想よりたくさん売れてやりがいがあった。
- ・途中で誰のオーダーなのかわからなくなってしまった。来た順に並んでもらったり、番号札を持ってもらったりすると思う。
- ・もっと大きな声で接客すればよかった。
- ・もう少し広い場所の方が動きやすかった。
- ・コーヒーの注文が予想以上に多く、ドリップするのに時間がかかった。作り置きできる方法があればいいと思う。
- ・バタバタしてしまって、正確に伝票をつけられないことがあった。

喜びあり、あの時こうすればよかったなどの反省もあり、出店後の話し合いは有意義な振り返りとなりました。





おわりに



今回で3年目を迎え、全4クール、約40名に対して実施してきたお仕事体験の連続講座。法人として、『働くこと』をメインテーマにおいた事業は初の取り組みでした。講師を受け持ってくださいましたブライトシフトの先生方にとっても子どもたちに連続講座としての開催は初の試みであったため、互いに試行錯誤し、細かく打合せを重ねてのスタートとなりました。2年目、3年目であっても、前回と同様の取り組みをおこなうのではなく、前回の良かった点や改善点を踏まえて、改良と更なる試行錯誤を重ねていきました。

子どもたちにとって、この講座に参加することや最後までやり抜くことは容易ではなかったと思います。また、初めての体験を初めての人とおこなうことや自分自身や自分の将来について考えることは、とてもハードルが高く、大きなエネルギーが必要なことだったでしょう。その中で、①信頼できる人からの後押しがあったこと、②講師とサポートスタッフから「自分の良いところ」のフィードバックがあったこと、③毎回の保護者連絡による家庭からのサポートがあったことは、子どもたちが講座を最後までやり遂げるきっかけやモチベーションになったのだと思います。

どのクールにおいても、子どもたちは初回の講義では自信がなく、うつむきがちでした。しかし、学びと体験を重ねるごとに、子どもたちの顔が上がり、いきいきとした表情へと変化していく過程を、講師もサポートスタッフもワクワクした気持ちで見えていました。大人たちによる適切なサポートが、子どもたちの成長を大きく促したのだと思います。

『ホンモノに触れること』『安心できる大人が側にいること』『自分や社会を理解すること』で子どもたちは大きく成長し可能性が広がっていくことを、この3年間の講座を通して改めて確認できたと思います。また、職場実習での体験は、企業や地域の方々が働くことを通して子どもたちと直接関わり、子どもたちのリアルな実状を知ってもらうことにも繋がりました。一方通行の活動ではなく、『子どもと地域社会をつなぐ事業』として『子どもと地域社会がともに刺激し合える事業』になったと感じます。

「子どもたちには可能性しかありません」という講師の言葉を胸に、今後も子どもたちが“主体的に自分の将来を決める”、“子どもと地域社会が互に関わり合える”ための活動をおこなっていきたいと思います。





MEMO



最後までお付き合いくださりありがとうございました！
今後も当法人の活動にご支援・ご声援をお願いいたします。

一般社団法人 こもれび 代表理事 水流添 綾





一般社団法人こもれび

〒550-0015

大阪市西区南堀江 3 丁目 11-22 HORIE JNS ビル 6 階

連絡先：06-4394-8697

【最寄り駅】

大阪メトロ 千日前線「西長堀」駅 6 番出口から徒歩 4 分

【法人 Web サイトなど】

【フリースクール・えこじえむ】

